

令和6年度

地域住民との協働による防災まちづくり支援業務委託
(令和5年度開始地区)

仕 様 書

令和6年度

川崎市まちづくり局市街地整備部防災まちづくり推進課

委託業務仕様書

1. 委託件名

令和6年度 地域住民との協働による防災まちづくり支援業務委託（令和5年度開始地区）

2. 履行期限

本業務の履行期限は、令和7年3月14日限りとする。

3. 目的

本業務は、防災まちづくり推進地区（別紙参照）内における町会（以下「支援町会」という。）において、川崎市（以下「本市」という。）が実施する「地域住民との協働による防災まちづくり」により、地域住民が主体的に防災訓練等を実施できる体制づくり等に向けた取組の支援を目的とする。

なお、支援については3年間とし、本業務は支援2年目となる。

4. 準拠すべき図書等

本業務の遂行にあたっては、契約書、川崎市委託契約約款、本仕様書、設計書に基づくものとする。

また、本市における防災分野に関する現行の取組や経緯を踏まえるとともに、本業務の内容と密接に関係する、総合計画、都市計画法第6条の2に基づく「都市計画区域の整備、開発及び保全の方針」及び都市計画法第18条の2に基づく「川崎市都市計画マスタープラン」をはじめとする本市のまちづくりの方針、「防災都市づくり基本計画」、「地震被害想定調査」や「地域防災計画」、「かわさき強靱化計画」など政策領域別計画等を十分に理解し、作業、調査等を行う。

5. 業務内容 ※3年間の支援の2年目

(1) 支援町会の防災活動支援等

ア 基礎資料の作成

支援町会は、中原区内2町会、川崎区内1町会（別添1：「防災まちづくり支援町会」参照）とし、支援1年目に作成した基礎資料（各支援町会に応じて地勢条件、人口動態ほかの地域特性に関わる情報等）を必要に応じてそれぞれ更新すること。

イ 取組内容の企画及び取組の支援（1町会につき3～4回程度）

取組内容については、各支援町会の地域特性を踏まえて監督員と調整した上で企画すること。なお、本業務は防災まちづくり支援の2年目にあたることから、1年目の取組（①防災まちづくりに関するニュースチラシ配布、②防災アンケート、③防災まち歩き、④防災カルテ作成）を踏まえて、地域が主体的に取り組みやすい内容（例：活動内容の検討会議、防災倉庫棚卸支援、マイタイムライン作成支援、人材リスト作成支援、防災訓練の実施支援など）を企画すること。

各支援町会が現時点で実施した取組は別添2～4を参照すること。

また、取組の実施にあたっては、監督員を補助するとともに協力して実施すること。なお、実施における必要な備品や費用等は本業務に含むものとする。

ウ 取組の実施前後のチラシの作成

取組の実施前に作成するチラシについては、過年度に作成したものを参考にするとともに、多くの地

域住民の参加を促す内容とすること。

取組の実施後に作成するチラシについては、過年度に作成したものを参考にするとともに、実施内容だけでなく、地域の魅力等も発信できる内容とすること。

掲載内容は、支援町会の要望等に応じて、監督員と調整した上で作成すること。

エ チラシの印刷

チラシの印刷については、年間を通じて適宜行うこと。なお、1町会あたりの年間の合計印刷部数は、A3両面カラー（普通紙）を2,000部程度、A3両面白黒（普通紙）を1,000部程度とする。

チラシの配布については本市が実施することを基本とする。

(2) 報告書の作成

報告書については、(1)の業務内容を取りまとめること。

(3) 打合せ記録の作成

本業務の初回、中間時、納品時を含めて、受注者は監督員と適宜打合せ協議を行うこと。

また、地域住民等との打合せにも必要に応じて同席し、記録を作成すること。なお、地域住民との打合せに同席する際は資料の印刷を行うこと。印刷については、(1)エの部数に含むものとする。

6. 貸与資料の取り扱い

本業務の実施に際して、発注者が貸与する物品、資料などについては、他の目的への使用及び第三者への貸与・譲渡を禁止し、受注者が自己の責任のもとに十分管理を行い、その内容は他に漏らしてはならない。また、貸与資料は貸与目的の終了後、速やかに返却すること。

[貸与資料]
	・令和5年度以前の支援地区の実施概要報告書及び電子データ	
	・都市計画基礎調査（土地・建物）DVD-R	
	・その他必要な資料	

7. 疑義

本仕様書に定めのない事項、又は疑義が生じた場合は、受注者は監督員と協議のうえ、監督員の指示により実施し、必要に応じて受注者は協議記録簿を作成し、監督員に提出すること。

8. 成果品項目及び提出書類

(1) 成果品項目は次に掲げる通りとする。

各成果品の取りまとめ内容や納入時期については、別途、監督員と協議すること。

ア 報告書（3町会分） 2部（A4版・両面刷り・カラー）

イ 上記の電子データ 一式

(2) 書類等の提出

受注者は、本業務契約締結時及び完了時に、速やかに次に掲げる書類を監督員に提出すること。

また、これを変更する場合も同様とする。

ア 委託業務着手時

(ア) 委託業務着手届（まちづくり局委託業務監督要領（以下、「要領」という。）第2号様式）

(イ) 委託業務代理人・作業員届（要領第3号様式）

(ウ) 組織表 (要領第 6 号様式)

(エ) 委託業務工程表

イ 委託業務完了時

(ア) 委託業務完了届 (要領第 9 号様式)

(3) 資料等における個人情報記載

本業務で使用する資料等を作成する際は、地域住民の氏名や住所など個人情報が記載されないように作成を行うこと。ただし、地域内の広報誌で用いる個人情報においては、地域内の関係者に確認を行った上で記載することができるが、当該記載した内容は成果品として納付する際には削除するものとする。

9. 個人情報の適正な維持管理

本業務を履行するに当たり、受注者は個人情報を含む発注者の情報資産の取扱いについては、別記「個人情報の取扱いに関する情報セキュリティ特記事項」を遵守すること。

10. 電子納品

本業務の成果品において、電子納品については次の通りとする。

- (1) 成果品の電子データを格納した CD-R 等を提出すること。
- (2) データを取り扱う際は、ウイルスチェックを行うこと。ウイルスチェックを行うソフトは、常に最新のものにアップデートすること。
- (3) CD-R 等の表面には、「業務名称」「契約番号」「納品年月」「(複数枚ある場合には) ○枚/○枚」を記して納品すること。
- (4) データのファイル (ソフトウェア名、バージョン等) 等については、発注者と協議を行うこと。

11. その他

本業務遂行に必要な書類については、監督員の指示により、適宜提出する。

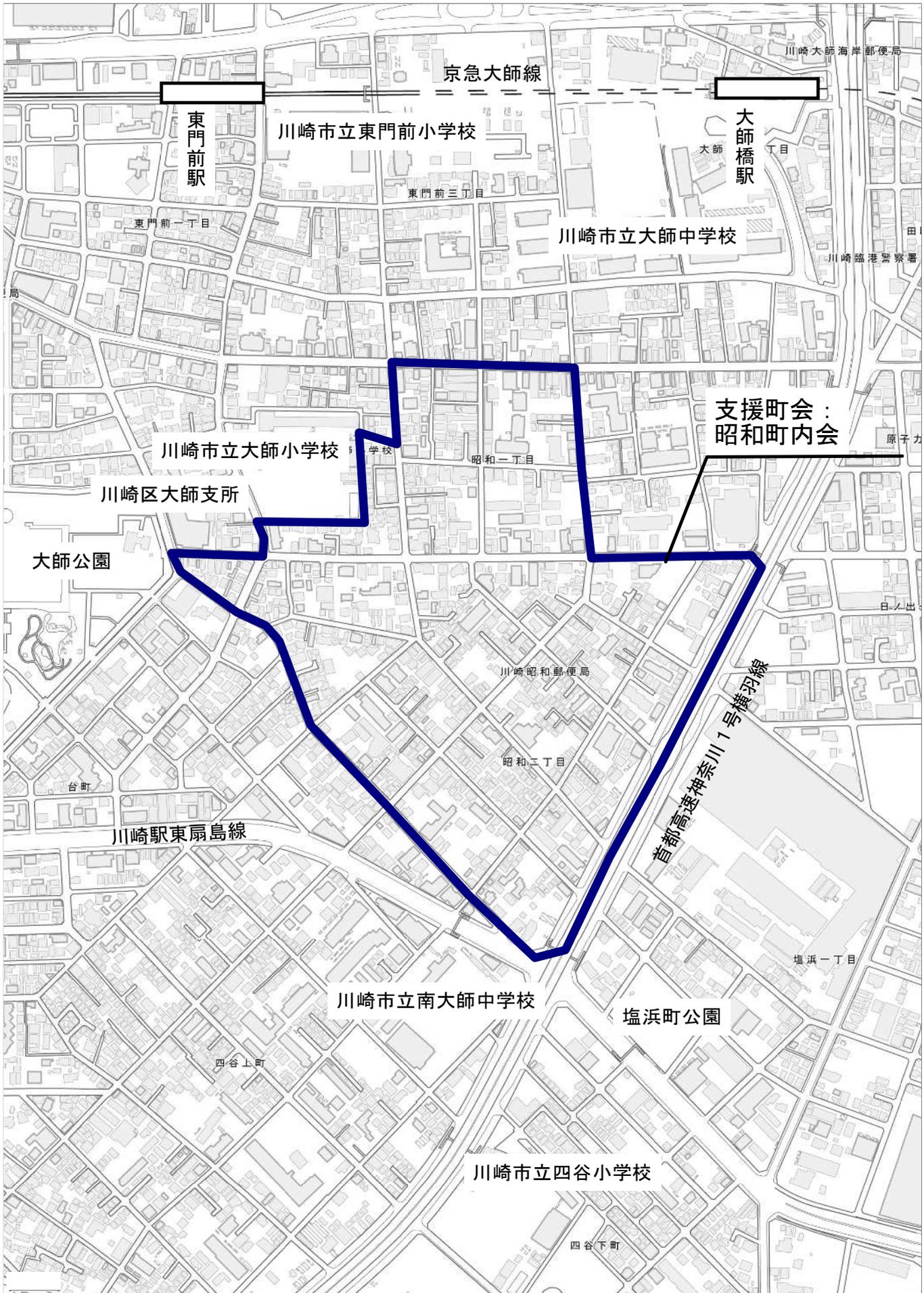
防災まちづくり推進地区

- ①大師周辺地区
- ②観音周辺地区
- ③旭町周辺地区
- ④戸手周辺地区
- ⑤古市場周辺地区
- ⑥塚越周辺地区
- ⑦小倉周辺地区
- ⑧中丸子・上平間周辺地区
- ⑨小杉北周辺地区
- ⑩向河原駅・平間駅周辺地区
- ⑪苅宿周辺地区
- ⑫井田周辺地区
- ⑬二子新地駅北周辺地区
- ⑭二子新地駅南周辺地区
- ⑮馬絹周辺地区
- ⑯西生田・高石周辺地区









地域のことをみんなで考える
防災カルテづくりを実施しました！



小杉陣屋町一丁目町会NEWS Vol. 3

発行月 令和6年4月（予定）



ニュースレターをご覧いただき、ありがとうございます。
2月10日にまちづくり交流会を開催しました。交流会前半では、まち歩きやアンケートなど、これまでの防災まちづくりの取組を振り返り、後半では、災害時に地域の気になることなどテーマを幅広く設けて意見交換を行いました。今回は意見交換の内容を抜粋して紹介します。

地域の防災・町会の体制



- ・ 火事は初期消火が重要、消火器を用意しておきたい。1週間は自力で対応できるように物資の備蓄をする。まずは一人ひとりが家や心の準備をする必要がある。
- ・ 避難所運営にお手伝いいただけるような地域の人材をリスト化したい

地域の備え

- ・ 購入したAEDを使い、年2回程度、定期的な体験会を実施したい
- ・ 現在の防災倉庫(倉庫)内を棚卸して、町会の備蓄状況を確認し、災害時に活用できそうな資機材を探す。



地域活動の状況



- ・運動会の炊き出しの再開や既存のイベントの中で防災訓練など合わせて行う
- ・地域の民生委員でボーイスカウトをやっている方、キャンプが得意な方などは知っている。他にも趣味の延長の様な形で構わないので人材を見つけていきたい。
- ・ご近所どうしの顔も知らない方がほとんど、地域と交流できる活動や方法が必要。

今回作成した防災カルテや、アンケート、まち歩きなど1年目に行った活動を基に、防災まちづくり2年目の活動の目標として、以下を考えました。

今年度の目標

目標1

年齢を問わず誰でも参加しやすい楽しい活動

目標2

それぞれの事情にあった安全な避難ができるようにする

目標3

町会だけでなく、一人ひとりがしっかり備蓄できるよう促す

会長より今後の活動について



日ごろより町会活動を始めとして、防災まちづくりの活動にご参加いただきありがとうございます。

元旦には能登半島地震が発生し、改めて災害の恐ろしさを目の当たりにした方多いのではないのでしょうか。被災地では、現在も孤立した集落や避難所では地域の方どうしが助け合いながら被災生活を送っている様子がニュースなどを通して伝わってきます。

大きな災害が起こった際は、地域の助け合いが何より重要です。

普段からのつながりを大切に今後も町会活動や防災まちづくりの活動にご協力ください。

防災まち歩きや意見交換を通して…

- 道路の狭さや複雑さ、行き止まり、樹木など、避難の支障となる道が多いので、災害別の適切な避難場所と避難路を考える。
→高齢者やすぐ避難することが難しい方にも考慮した避難路の啓発など
- 応急給水拠点や避難場所、防災倉庫など資源の場所や活用方法を地域に周知する必要がある。

各種防災マップを確認しましょう

事前の情報収集と備えが、あなたとあなたの大切な方の命を守る大切なステップです。防災マップを確認して、普段からの備えを強化しましょう。



川崎市
防災マップ

自宅の安全性を高めましょう

地域の備えといえば、水や食料、防災グッズの確保に関心が向きがちですが、それらが役に立つのは「身の安全」が確保された上でのことです。次の大地震が来る前に備えましょう。

木造住宅の耐震化 昭和56年5月31日以前に建てられた住宅は、古い耐震基準で建てられていることから特に地震に弱いと言われています。川崎市では、旧耐震基準で建てられた木造住宅の方に**無料で耐震診断士**を派遣しています。調査は2〜3時間程度と短時間です。また、耐震改修工事の費用の一部を**補助**しています。

詳細は川崎市役所防災まちづくり推進課まで（TEL：044-200-3017）



木造住宅耐震診断士
派遣制度

今回のまち歩きやアンケートの結果から、普段から地域の情報をもっと多くの方に届くよう発信する必要があると感じました。また、今後もより一層、地域の皆さんが協力し合えるような町会にしていきたいと思います。

小杉陣屋町一丁目町会会長 三日市令子



小杉陣屋町一丁目町会長のブログ

地域や町会のイベント情報や防災の情報を発信中！要チェック！

みんなで話そう防災のこと、このまちのこと！ まちづくり交流会を開催します！

地域の防災についてのこと、気になっていること、こんなイベントがあったらいいな…などテーマを設けてみんなでお話しませんか？

日時：2月10日 10:00~12:00
場所：小杉陣屋町一丁目会館



アンケート調査と防災まち歩きを実施しました！

小杉陣屋町一丁目町会では、今年度から川崎市の支援を受けて防災まちづくりの取組を進めています。今回はその取組の中で実施した防災アンケートやまち歩きの結果をご紹介します。



地域防災活動のためのアンケート調査のご報告

アンケート調査について約1,700世帯を対象に実施しました。配布や回答などご協力いただいた皆様、ありがとうございました。ここでは、アンケートの結果を一部抜粋してご紹介いたします。

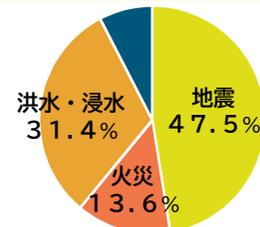
実施期間：2023年10月1日～10月31日

回収数：236件(Web:147件/郵送:89件)

配布数：約1,700 ※町会に加入していない方も含まます

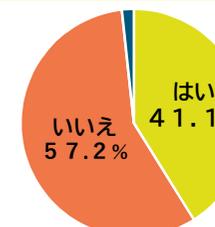
回答数：13.4% ※町会に加入していない方も含まます

あなたが地域で一番不安に感じている自然災害は次のどれですか。



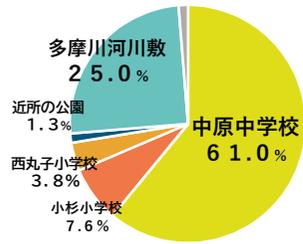
最も多いのが地震、次いで洪水・浸水という結果でした。

小杉陣屋町一丁目町会は大地震が起きたとき、大規模な火災延焼の恐れがあることを知っていますか。



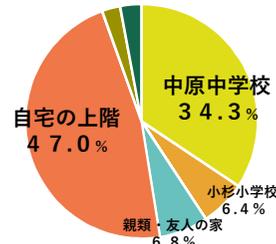
6割弱の方が知らないという結果でした。

大地震が起きて火災が発生し、地域一帯が延焼する危険性のあるとき、どこに避難しますか



最も多いのが指定避難所である**中原中学校**、次いで広域避難場所の**多摩川河川敷**という結果になりました。

大きな台風が来て浸水の危険性があるとき、どこに避難しますか



最も多いのが**自宅の上階**、次いで**中原中学校**という結果になりました。

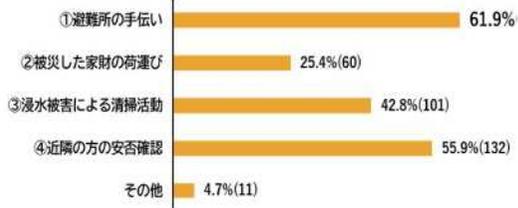
災害別の避難について

上の2つの設問では災害別の避難先を調査しました。

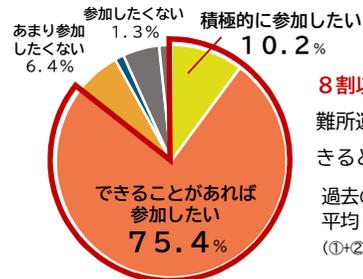
どの災害においても状況によって、臨機応変に避難先や避難ルートを変える必要があります。普段から自宅周辺の地域資源についてしっかり確認しておきましょう！



災害時、地域の防災活動で参加できるものがありますか（いくつでもお選びください）。



あなたが避難所に避難したとき、避難所の運営に参加できますか。



8割以上の方が避難所運営に参加できると回答！
過去のアンケート平均：7割（①+②）



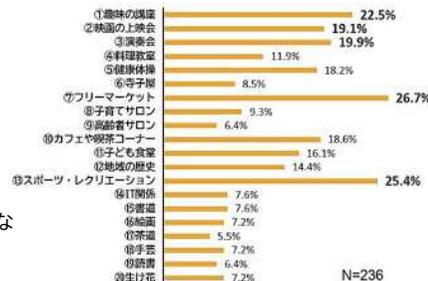
災害時の助け合いについて

上の2つの設問では共助について調査しました。避難所運営のお手伝いに関しては、8割以上の方が参加できると回答いただき、過去のアンケート平均を上回る結果となりました。地域全体として防災意識が高く、今後は手伝いやしやすい環境や体制づくりに力を入れていく必要があります。

地域で参加したいイベント、ご自身が興味のあるものはありますか（いくつでも）

- 1位：フリーマーケット
- 2位：スポーツ・レクリエーション
- 3位：趣味の講座
- 4位：演奏会 / 5位：映画の上映会

今回いただいた意見を参考に、楽しく参加できるようなイベントを開催していきます！ぜひご参加ください！



防災まち歩きで地域の課題や資源を確認しました！

11月18日に防災まち歩きを行いました。普段何気なく歩いている地域も、防災の目線で見ると、意外と多くの発見があります。

広域避難場所の河川敷にあがる道は人がたまる

細い道や樹木など、道が複雑で避難経路に気を付ける必要がある

水害の時は自分に合った避難先を検討するべき

見通しの悪い道や行き止まりが多い

応急給水拠点だと初めて知った

細い道に緊急車両が止まった時通り抜けできるか不安

● 消火栓 道路 木造建物
● 防火水槽 4m未満道路 マンション等
○ 行き止まり 駐車場
■ 避難場所 公園・緑道

地域のことをみんなで考える
防災カルテづくりを実施しました！



上平間第一町内会NEWS Vol. 3

発行月 令和6年4月（予定）



ニュースレターをご覧ください、ありがとうございます。
2月18日にまちづくり交流会を開催しました。交流会前半では、まち歩きやアンケートなど、これまでの防災まちづくりの取組を振り返り、後半では、災害時に地域の気になることなどテーマを幅広く設けて意見交換を行いました。今回は意見交換の内容を抜粋して紹介します。

災害に応じた避難場所、避難経路、避難方法



- ・ 町内会でマイタイムラインづくりを行って、自分に合った避難方法を考えたい。
- ・ 19号の様子を振り返り、記録を作成するべきだ。
- ・ 初めての避難所運営で組織だって動くことができず戸惑った。発災時は普段のマニュアル通りには行かない。「これだけはやる」ということを整理する。

地域の備え・普段の地域情報発信の手段、災害時の伝達手段

- ・ 町内会の防災組織を拡充するためにも、多様な世代に町会の情報が届くよう 紙やWEBの両方の広報に力を入れていきたい。



その他のこと



- ・ ご近所どうしで見守りができる安否確認訓練、民生委員と連携した要援護者支援、町会独自の防災訓練を実施してみたい
- ・ 防災倉庫の周知と、棚卸による資機材の点検をやってみる
- ・ 避難所は地域で運営することを周知、避難所運営会議の内容を共有する
- ・ 消火栓のマップづくりや、消化ホースキットの訓練が必要。

今回作成した防災カルテや、アンケート、まち歩きなど1年目に行った活動を基に、防災まちづくり2年目の活動の目標として、以下を考えました。

今年度の目標

目標1

それぞれの事情にあった安全な避難ができるようにする

目標2

様々な世代が参加しやすい防災×交流イベント

目標3

町会だけでなく、一人ひとりがしっかり備蓄できるよう促す

会長より今後の活動について



日ごろより町会活動を始めとして、防災まちづくりの活動にご参加いただきありがとうございます。

元旦には能登半島地震が発生し、改めて災害の恐ろしさを目の当たりにした方多いのではないのでしょうか。被災地では、現在も孤立した集落や避難所では地域の方どうしが助け合いながら被災生活を送っている様子がニュースなどを通して伝わってきます。

大きな災害が起こった際は、**地域の助け合いが何より重要**です。

普段からのつながりを大切に今後も町会活動や防災まちづくりの活動にご協力ください。

防災まち歩きや意見交換を通して…

- 道路の複雑さ、行き止まりなど、避難の支障となる道が多いので、災害別の適切な避難場所と避難路を考える。
- ⇒水害実績や土地の高低差を加味して、特に高齢者やすぐ避難することが難しい方にも考慮した避難路の啓発などを行う。
- 応急玉川小学校を避難場所として有効に使えるよう、防災倉庫などの資源の場所や活動方法を確認し、各々が適切な避難が行えるよう啓発する。

各種防災マップを確認しましょう

事前の情報収集と備えが、あなたとあなたの大切な方の命を守る大切なステップです。防災マップを確認して、普段からの備えを強化しましょう。



川崎市
防災マップ

自宅の安全性を高めましょう

地震の備えといえば、水や食料、防災グッズの確保に関心が向きがちですが、それらが役に立つのは「身の安全」が確保された上でのことです。次の大地震が来る前に備えましょう。

木造住宅の耐震化 昭和56年5月31日以前に建てられた住宅は、古い耐震基準で建てられていることから特に地震に弱いと言われています。川崎市では、旧耐震基準で建てられた木造住宅の方に**無料で耐震診断士**を派遣しています。調査は2～3時間程度と短時間です。また、耐震改修工事の費用の一部を**補助**しています。詳細は川崎市役所防災まちづくり推進課まで（TEL：044-200-3017）



木造住宅耐震診断士
派遣制度



上平間第一町内会 防災まちづくりNEWS Vol. 2

令和6年1月発行

アンケート調査と防災まち歩きを実施しました！

上平間第一町内会では、今年度から川崎市の支援を受けて防災まちづくりの取組を進めています。今回はその取組の中で実施した防災アンケートやまち歩きの結果をご紹介します。



今回のまち歩きやアンケートの結果から、地域の災害情報をもっと多くの方に届くよう発信し、防災意識の啓発をしていくことが必要であると感じました。また、今後も上平間第一町内会を、皆さんと一緒に協力しながら、防災に強い町会にしていきたいと思います。

上平間第一町内会会長 田口ひろ子



地域防災活動のためのアンケート調査のご報告

アンケート調査について2,000世帯を対象に実施しました。配布や回答などご協力いただいた皆様、ありがとうございました。ここでは、アンケートの結果を一部抜粋してご紹介します。

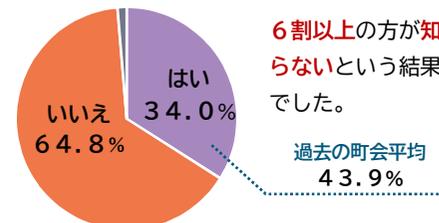
実施期間：2023年10月1日～10月31日

回収数：159件(Web:59件/郵送:100件)

配布数：2,000件

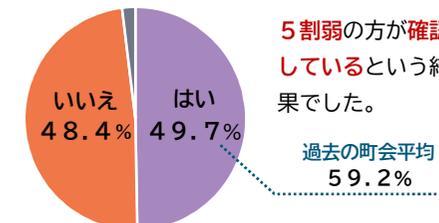
回答数：8.0%

上平間第一町内会は大地震が起きたとき、大規模な火災延焼の恐れを知っていますか。



6割以上の方が知らないという結果でした。

上平間第一町内会でおきる災害について、ハザードマップや防災マップで確認していますか。



5割弱の方が確認しているという結果でした。

みんなで話そう防災のこと、このまちのこと！ まちづくり交流会を開催します！

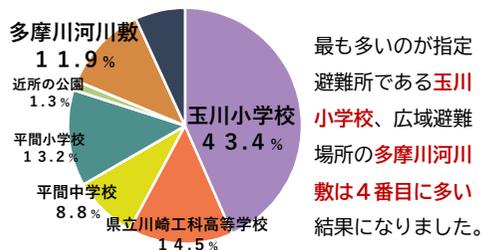
地域の防災についてのこと、気になっていること、こんなイベントがあったらいいな…などテーマを設けてみんなでお話しませんか？

日時：2月18日 13:00～15:00

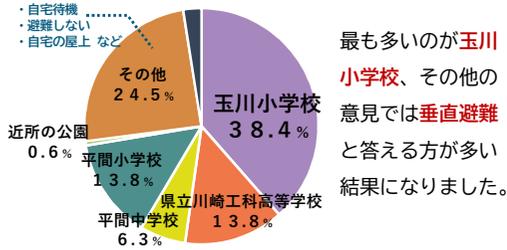
場所：上平間第一町内会会館



大地震が起きて火災が発生し、地域一帯が延焼する危険性のあるとき、どこに避難しますか



大きな台風が来て浸水の危険性があるとき、どこに避難しますか

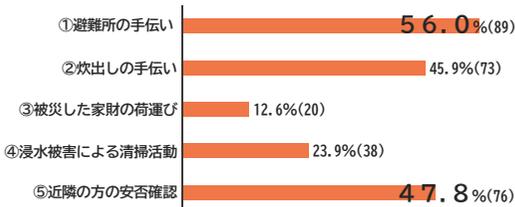


災害別の避難について

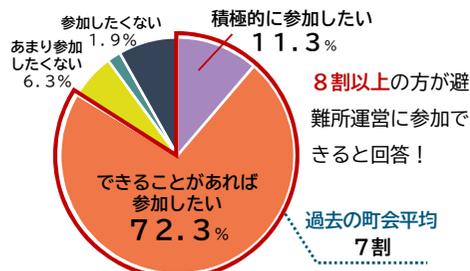
上の2つの設問では災害別の避難先を調査しました。どの災害においても状況によって、臨機応変に避難先や避難ルートを変える必要があります。普段から自宅周辺の地域資源についてしっかり確認しておきましょう！



災害時、地域の防災活動で参加できるものがありますか（いくつでもお選びください）。



あなたが避難所に避難したとき、避難所の運営に参加できますか。

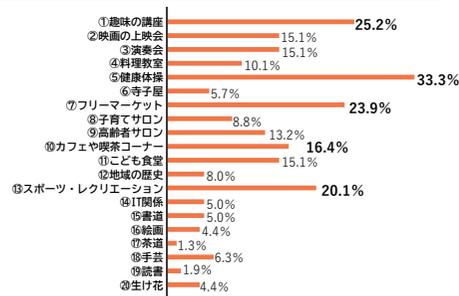


災害時の助け合いについて

上の2つの設問では共助について調査しました。避難所運営のお手伝いに関しては、8割以上の方が参加できると回答いただき、過去のアンケート平均を上回る結果となりました。地域全体として防災意識が高く、今後は手伝いやすい環境や体制づくりに力を入れていく必要があります。

地域で参加したいイベント、ご自身が興味のあるものはありますか（いくつでも）

- 健康体操
 - 趣味の講座
 - フリーマーケット
 - スポーツ・レクリエーション
 - カフェや喫茶コーナー
- 今回いただいた意見を参考に、楽しく参加できるようなイベントを開催していきます！ぜひご参加ください！



防災まち歩きで地域の課題や資源を確認しました！

12月3日に防災まち歩きを行いました。普段何気なく歩いている地域も、防災の目線で見ると、意外と多くの発見があります。

防災倉庫があること自体知らなかった、中身が気になる。避難所の受け入れ人数的にも各々が適切な避難を考えるべき。

3mの浸水が想定されているなんて知らなかった。行き止まりの道を把握することが大切。

東日本台風の際、冠水していた。安全な避難経路としては選ばない方が良さそう。

道が複雑な道や行き止まりの道を把握して、自分がどの道を通れば安全なのか、避難経路を考えたい。

家屋の倒壊や、密集した建物による火災延焼が不安。
複雑な道など、夜間になれば余計に道が見えなくなり、要援護者の方や高齢者の方は避難経路の作成や対策が必要。

【全体の意見】
・長く住んでいるが、初めて知ることが多かった。東日本台風の被害があったなんて知らなかった。
・避難について考える良いきっかけになった。『安否確認訓練』の様な取組を実施して災害に備えても良いだろう。
・町内会で消火ホースキットの訓練もやってみたい。

● 消火栓 ● 消防水槽 ● 4m未満道路 ● 木造建物 ● マンション等
○ 行き止まり ● 駐車場 ● 公園・緑道
■ グラウンド ■ 避難場所

昭和町内会 防災まちづくり ニュース 第3号

令和6年
4月発行
(予定)

昭和町内会は令和5年度から川崎市の支援を受けて防災まちづくりの取組を進めています。1年目の最後の取組として、3月10日に「防災まち歩き」と「防災意見交換会」を行いましたので、今回その内容をお伝えします。1年目は役員を中心に地域の課題を発見する取組を進めましたが、2年目以降はこれらの結果を踏まえ、皆様にもご参加いただけるような活動を検討してまいりますので、実施の際はご参加いただけますと幸いです。

意見交換会で出た意見・提案(抜粋)

地域の現状について

- ・ 町会の防災資器材は少しずつ増えてきているが、何がどこにあるのか把握できていない。
- ・ 北公園の防災倉庫はセキュリティが不安。
- ・ 発電機などの使い方が分からない。
- ・ 災害時要援護者の支援を誰がするのか決まっていない。
- ・ 要援護者制度に登録していなくても支援が必要な人がいるのではないか。
- ・ 消防団などは地区を超えた連携があるが、町内会はそうっていない。
- ・ マンションに住んでいる人との交流が無い。誰がいるかもわからない。
- ・ 掲示板数は充実しており、見ている人も多い。

これから必要な取組について

- ・ ファミリー層に来てもらえる防災訓練
- ・ 防災資器材を活用した炊き出し訓練
- ・ 簡易トイレの普及、使い方講座
- ・ 防災資器材の整理とリスト化
- ・ 災害時要援護者を支援できる人の発掘
- ・ マンション住民の方との交流促進、町内会勧誘
- ・ 他の町内会や企業、商店街等との連携



防災まち歩きは以下の地図を基に行いました。普段通る道でも防災の視点で見ると新しい発見があったり、課題点や防災設備を実際に見ることで改めて地域の現状を実感するきっかけになったりしました。皆様もぜひ意識して歩いてみてください。



昭和町内会 防災まち歩きマップ



アンケート結果を
ふまえて…

ご家庭や個人でできる

災害への備えを進めましょう

防災マップ

各種防災マップを確認しましょう

川崎市が直面する可能性のある各種災害に備えて、市から防災マップが公表されています。災害はいつ起こるかわかりません。事前の情報収集と備えが、あなたとあなたの大切な方の命を守る大切なステップです。いま一度、公表されている防災マップを確認して、普段からの備えを強化しましょう。



▲洪水ハザードマップ川崎区版

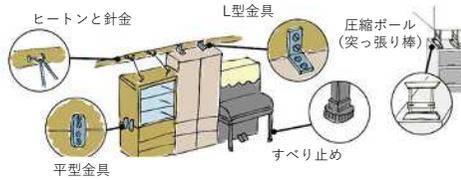
地震

自宅の安全性を高めましょう

地震の備えといえば、水や食料、防災グッズの確保に関心が向きがちですが、それらが役に立つのは「身の安全」が確保された上でのことです。消火器を用意するとともに、家具の固定や配置の見直し等を行いましょう。

家具の転倒防止策

家具の転倒防止は、地震発生時のケガの防止や火災予防、そして避難の際の妨げにならないようにするために重要です。



木造住宅耐震診断士派遣制度



木造住宅の耐震化 昭和56年5月31日以前に建てられた住宅は、古い耐震基準で建てられていることから特に地震に弱いと言われています。地震による倒壊から自分や家族の命を守るためには住宅の耐震診断をして、必要に応じて耐震改修を行う事が大切です。川崎市では、旧耐震基準で建てられた木造住宅の方に**無料で耐震診断士**を派遣しています。調査は2~3時間程度と短時間です。また、耐震改修工事の費用の一部を補助しています。詳細は川崎市役所防災まちづくり推進課まで (TEL: 044-200-3017)

洪水

情報を逃さず早めの避難を心がけましょう

台風等による大雨や河川氾濫が予想されるときは、事前に気象情報や避難情報など多くの情報が発表されます。情報の意味を正確に把握し、状況に応じた適切な避難行動を取りましょう。

避難情報（警戒レベル）

緊急時には川崎市からの避難情報を確認し、安全を確認してください。自宅に浸水の危険がある場合は、警戒レベル3【高齢者等避難】で高齢者や足腰に不自由がある方は避難、警戒レベル4【避難指示】で全員避難です。

警戒レベル	状況	往診がとるべき行動	避難情報等
5	災害発生又は切迫	命の危険直ちに安全確保！	緊急安全確保
<警戒レベル4までに必ず避難！>			
4	災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難	避難指示
3	災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難	高齢者等避難

注) 警戒レベル1と2を省略して表示

情報の入手方法

川崎市防災ポータルサイトやテレビのデータ放送などで市内の災害情報、避難情報、避難所の開設状況などを入手できます。

川崎市防災ポータルサイト メールニュースかわさき(登録制)



【テレビでの情報収集】

d ボタンの使い方 ~NHKの場合~

- NHK総合にチャンネルを合わせ、リモコンの[d(データ放送)]ボタンを押す。
- リモコンの矢印で[防災・生活情報]に合わせ、[決定]ボタンを押す。
- 川崎市から情報が発信されていれば[避難情報][避難所開設情報]ボタンが赤くなるので、選択すると情報が表示される。

昭和町内会 防災まちづくりニュース Vol.2

令和6年2月発行

震災により大規模火災が発生した石川県輪島市中心部

産経ニュース2024年1月1日「石川・輪島市で火災、たび重なる余震で消火活動困難」より

令和6年1月1日午後4時過ぎに石川県能登半島でマグニチュード7.6、最大震度7を観測する非常に強い地震が発生しました。この地震では耐震性能が十分でない古い建物の多くが倒壊したり、木造住宅密集地で大規模な火災延焼が起きたりするなど、以前から懸念されていたことが現実になりました。

火災が大規模になった理由としては、古い木造住宅が密集して火が燃え広がりやすい環境であったことに加え、地震により断水して消火栓が使えない、ガレキや陥没で消防車が道路を通れない、津波警報により消防団員も避難した、といったことが起こり消火活動が困難になったことが挙げられています。

昭和地区も木造住宅が密集しており、首都直下型地震などが起こった際に同様の事態が発生する危険性があります。地震を防ぐことはできませんが、地震が起きた時の被害は日ごろからの備えによって軽減できる可能性があります。いざという時に少しでも多くの方が助かるよう、皆様におかれましても各種防災取組やご近所同士の助け合いなどに協力いただきますようお願いいたします。



防災アンケート調査のご報告



昭和町内会では地域防災力の向上を図るため、川崎市と協働で防災まちづくりの取組を令和5年度から3年間実施することとしております。今後の取組の参考にするため先日実施した防災アンケート調査の結果がまとまりましたのでご報告いたします。回答にご協力いただいた皆様には心よりお礼申し上げます。

このアンケート結果などを基に今後様々な取組を進めてまいりますので、引き続きご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。

アンケート結果は中面をご覧ください

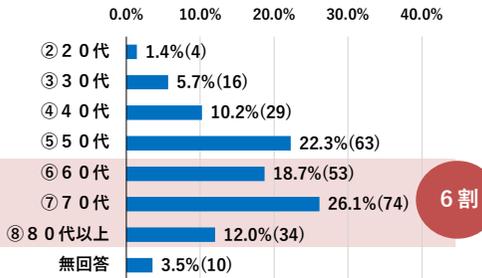


アンケート結果（抜粋）

実施期間：2023年10月1日～10月31日
配布数：約1,350件（町会加入世帯）

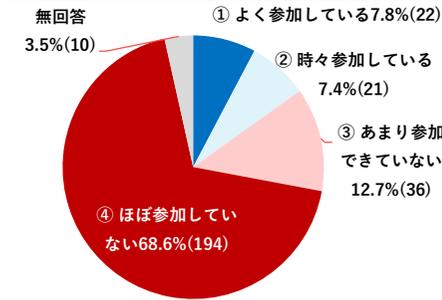
回収数：283件（郵送169件、Web114件）
回答率：約21.0%

Q.あなたのご年齢を教えてください



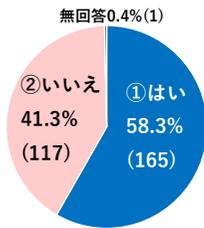
「60代以上」が約6割であり、「50代以下」の現役世代は約4割でした。

Q.あなた又はご家族は普段昭和町内会の活動へ参加していますか。



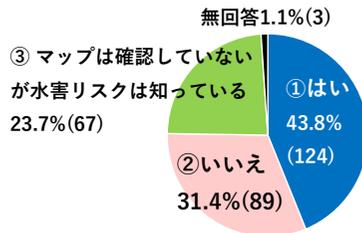
「あまり参加できていない」と「参加していない」を合わせると約8割となります。

Q.昭和地区は大地震が起きると大規模な火災延焼の恐れがあることを知っていますか。

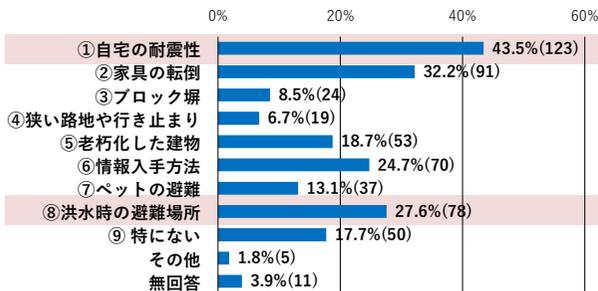


大地震の際に大規模な火災延焼の恐れについて知っている方は全体の約6割でした。また、ハザードマップを確認している人は全体の約44%でしたが、ハザードマップを確認していないが水害のリスクを認識されていると回答した人を含めると約7割となり、水害に対する意識は高いといえます。

Q.昭和地区（川崎区）のハザードマップや防災マップを確認していますか。

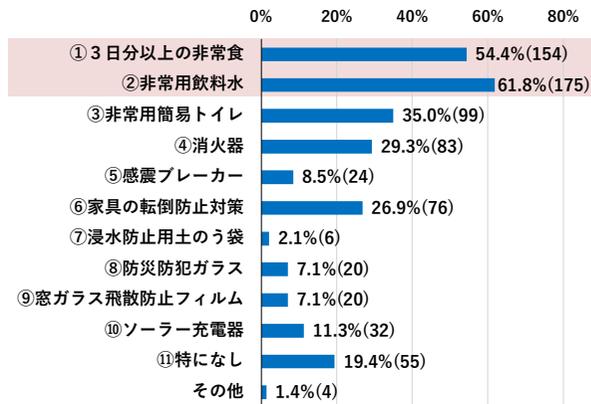


Q.災害時に身の回りで気になることがありますか（複数回答可能）



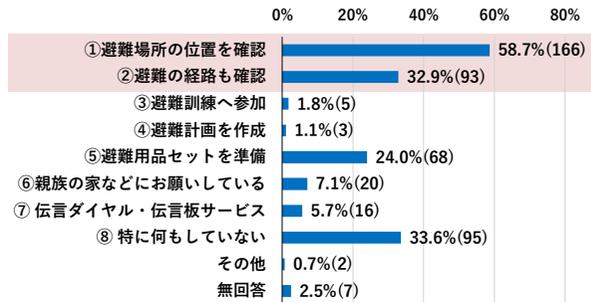
災害時に不安なことについては、約4割の人が「自宅の耐震性」と答えています。一方、水害のリスクに対する認識は高い割に、「洪水時の避難場所」への心配や不安を感じている人は3割程度となっています。回答からは、水害よりも地震への不安が大きいということが読み取れます。

Q.災害への対策として自宅に設置/備蓄等しているものはありますか。（複数回答可能）



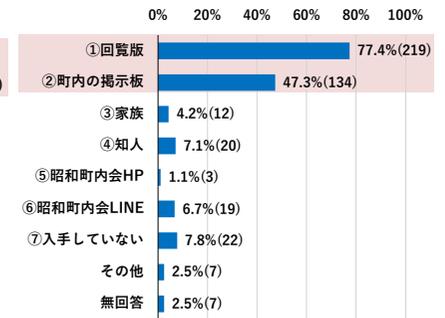
災害時の備えとして、半数以上の人々が自宅で「3日以上以上の非常食」「非常用飲料水」を備蓄していると回答しています。一方で、避難生活において必要となる可能性が高い「非常用の簡易トイレ」や、地震やそれに伴う火災への備えとなる「消火器」「家具の転倒防止」などの備えは3割前後にとどまっています。また、2割の人は「特になし」と回答しています。

Q.あなたやご家族は、災害時に自宅以外の場所へ避難しなければならない事態に備えてあらかじめ対策していることはありますか。（複数回答可能）



避難が必要な場合について避難場所を確認している人は約6割でしたが、避難場所までの経路を確認している人は3割にとどまっています。また、3割の人は「特になし」と回答しています。

Q.町内会の情報はどこから入手していますか。（複数回答可）



町内会の情報については、約8割の人が「回覧板」、約5割の人が「町内の掲示板」から入手していると答えています。災害時にはインターネットやSNS（LINEやフェイスブック、X（旧ツイッター））などが重要な情報源となるので、町内会のホームページやLINEを日常的な情報発信に活用することが望まれます。

アンケート結果の概要と今後に向けて

アンケートの結果から、個人としての基本的な災害対策、例えば水や食料の備蓄にはある程度積極的であることが分かりました。

また、地域全体での災害について、震災時の火災や水害などのリスクが有ることも認識されている方が多いようです。

一方で、地震や火災に対する自宅の備えや、避難行動については、まだ十分ではない現状も見受けられます。

地域コミュニティ活動では、多くの方が町内会活動に参加できておらず、情報の収集も回覧板や掲示板に依存していることがわかりました。これは、災害時の助け合いに影響を与えられそうです。

今後は、情報発信など地域コミュニティの連携を継続的に強化し、災害に対する具体的な対策を強化していく必要があると感じています。今回のアンケート結果は、今後の防災まちづくりの取り組みに役立てて参ります。